

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長

農作物病害虫発生予察注意報第1号の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。



連絡先 福井県農業試験場病害虫防除室
TEL 0776-54-9315
FAX 0776-54-5106
E-mail byogaichu-boujo@pref.fukui.lg.jp



福井県病害虫防除室

検索

令和8年農作物病害虫発生予察注意報第1号

7月上旬の水田周辺雑草地における斑点米カメムシ類の平均捕獲虫数は平年よりやや多い程度であるが、捕獲地点率は高いことや水田内への侵入も多く確認され、前回調査も勘案し平年より多いと思われる。今後もカメムシ類が増殖することが予想され、斑点米が多発生する恐れがある。このことから、斑点米カメムシ類の徹底した防除を強く喚起するため、注意報を発表する。

病害虫名 斑点米カメムシ類

1 注意報の内容

発生時期：成虫の本田侵入最盛期は7月3～4半旬

被害程度：少発、局多発

発生量：平年より多く、前年よりやや少ない

2 注意報発令の根拠

(1) 6月30日～7月2日に県内25地点において、水田周辺雑草地内ですくいとり調査(50回振り)を行った結果、本県の主要な斑点米カメムシ類であるアカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ等が県下平均で39.7頭と、平年32.2頭よりやや多く、前年68.5頭より少なかった。

本年度の調査は、降雨中や降雨後の調査地点率が32%と多く捕獲効率への影響が懸念されたが、捕獲地点率は96%と高く、前回調査(6月16～22日)が県下平均28.9頭と、平年21.4頭より高く、前年25.0頭よりやや高かったことから、平年より多い発生であることが推察される。

(2) 出穂前の水田においても、カスミカメムシ類、シラホシカメムシ類などが侵入している地点が多くみられている。

(3) アカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメなどカスミカメムシ類の第2世代成虫の発生最盛期は平年より早い7月3半旬頃と考えられる。

(4) 早生品種については、平年より早い出穂期となる見込みで、中生・晩生品種についても出穂が早まる傾向にあると推察される。

(5) 北陸地方の3か月予報(6月25日新潟地方気象台発表)では、気温が高い予報であることから、今後も斑点米カメムシ類の発生や活動に好適である。

3 防除対策

(1) カメムシ類は、水田の周縁部に多く発生するので、本田防除の際は畦畔も含め防除する。

(2) 出穂期以降の草刈りはカメムシ類の水田内への侵入を助長するので行わない。

(3) 水田内のイネ科雑草が多い圃場では、出穂前からカメムシ類が侵入、繁殖するため、斑点米の発生が多くなる。また、主要種のアカスジカスミカメはイネ科雑草の他ホタルイの穂にも産卵する傾向があるため、これらも含め除草を徹底する。

(4) ムギ跡の雑草地では、斑点米カメムシ類が繁殖しているため、隣接している水田では、出穂期以降の防除を徹底する。

(5) 今年は早生の出穂が平年より早まることが予想されるので、生育ステージの確認を行い適期防

除を徹底する。併せて、今後幼穂形成期に入ると見られる中晩生以降においても、生育ステージの確認を行い適期防除を徹底する。

- (6) 薬剤の散布にあたっては、最新の農薬使用基準(使用時期・使用回数等)を遵守するとともに、周辺居住者等への事前周知および飛散防止に努める。

《粉・液剤での防除》

- (1) 穂揃期～乳熟期(出穂3～5日後頃)と糊熟初期(出穂10～14日後頃)の2回薬剤散布を行う。
(2) 斑点米カメムシ類は、日中はあまり活動しないため、夕方か早朝に薬剤散布を行う。

《粒剤での防除》

- (1) 粒剤での防除は、薬剤によって散布時期が異なるので注意する。
(2) 散布時は水深3cm程度の湛水状態とし、3～4日湛水した後、自然落水する。

《追加防除》

農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類の発生が多い場合は、追加防除を行う。

◎ 防除対策の詳細は、令和8年度福井県農作物病害虫防除指針参照。

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/021033/shokuryouanzen/boujoshishin.html>



トゲシロカメムシ



ホリカメムシ



クモリカメムシ



アスジカメムシ



アカヒゲホリミドリカメムシ